

新潟県新発田地域振興局

令和元年度 人口減少問題対策推進事業「聖籠町における定住環境調査分析業務」

新潟県市町村別出生動向カルテ

令和2年3月27日

目次

カルテについて	1	(17) 佐渡市.....	82
(1) 新潟市	2	(18) 魚沼市.....	87
(2) 長岡市	7	(19) 南魚沼市.....	92
(3) 三条市	12	(20) 胎内市.....	97
(4) 柏崎市	17	(21) 聖籠町.....	102
(5) 新発田市	22	(22) 弥彦村.....	107
(6) 小千谷市	27	(23) 田上町.....	112
(7) 加茂市	32	(24) 阿賀町.....	117
(8) 十日町市	37	(25) 出雲崎町.....	122
(9) 見附市	42	(26) 湯沢町.....	127
(10) 村上市	47	(27) 津南町.....	132
(11) 燕市	52	(28) 刈羽村.....	137
(12) 糸魚川市.....	57	(29) 関川村.....	142
(13) 妙高市	62	(30) 粟島浦村.....	147
(14) 五泉市	67	補足説明.....	152
(15) 上越市	72	(1) レーダーチャートの解説.....	152
(16) 阿賀野市.....	77	(2) 日本のコホート合計出生率.....	153

カルテについて

本カルテは、1966-70 年生まれから 1986-90 年生まれまでのコホート合計出生率と出生動向に影響を与える 5 つの要因及び期間合計特殊出生率について、新潟県内 30 市町村別に評価したものである。

①出生に関する総合評価

コホート合計出生率と出生動向に影響を与える諸要因のうち、既婚率、定住率、結婚年齢を、コホート別に県内順位を 5 段階のレーダーチャートで評価する。さらに、各市町村の出生動向と課題を挙げる。詳細は補足説明(1)「レーダーチャートの解説」を参照。

②コホート合計特殊出生率

コホート合計特殊出生率の動向を明らかにする。コホート合計出生率は（報告書 12-1 節 (2-a) 式の通り）各コホートの到達年齢区分までの合計出生率である。なお、比較のため、日本全体のコホート合計特殊出生率の動向を補足説明(2)「日本のコホート合計出生率」に示している。

③コホート別女性既婚率

コホート別既婚率の動向を男女別に明らかにする。既婚率は（報告書 2-2 節 (2-b) 式に示した通り）各コホートの到達年齢区分までの既婚率である。

④コホート別女性定住（残存）率

コホート別女性定住率を明らかにする。定住率は（報告書 2-3 節 (2-c) 式の通り）各コホート女性の 0-4 歳時人口を 100 とした場合の、各コホートの年齢到達区分時点の人口指数である。

⑤コホート別女性平均結婚年齢

各コホートの年齢到達区分までの女性結婚年齢を明らかにする。平均結婚年齢の定義は、報告書 2-4 節 (2-d) 式の通りである。

⑥コホート別女性就業率

コホート別女性就業率を明らかにする。就業率は（報告書 2-5 節 (2-e) 式の通り）到達年齢区分時点のコホート女性人口に対する女性就業者の割合である。

⑦期間合計特殊出生率

1990 年から 2017 年までの市町村別期間合計特殊出生率の 3 年移動平均値(MA)と比較対象として新潟県全体の期間合計特殊出生率を示している。

$$TFR(MA)_t = (TFR_{t-2} + TFR_{t-1} + TFR_t) / 3$$

なお、本調査では、総務省「国勢調査」、新潟県「福祉保健年報」の公表数値や厚生労働省「人口動態調査」の調査票情報を独自に集計しており、公表数値とは一致しない場合がある。

¹ 新潟県新発田地域振興局 令和元年度人口減少問題対策推進事業「聖籠町における定住環境調査分析業務」報告書

補足説明

(1) レーダーチャートの解説

①チャートの作り方

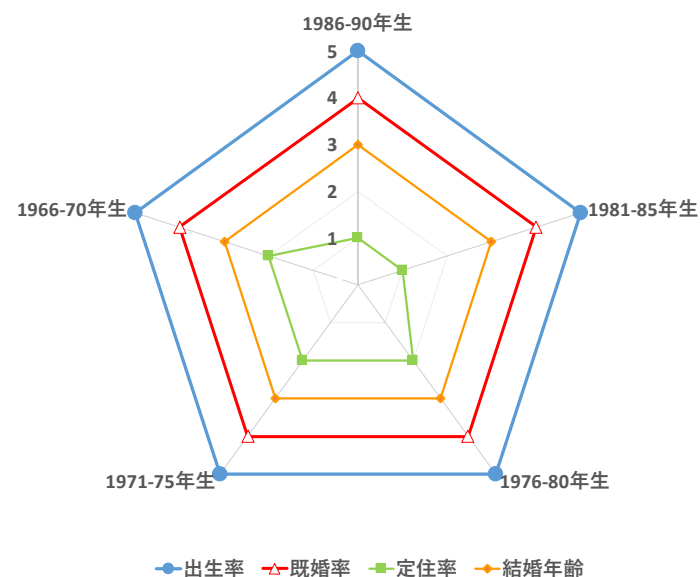
- ・ 1966-70年生まれから1986-90年生まれまでの各コホート別の新潟県30市町村内の順位を5段階で評価している。レーダーチャートの目盛りの値が高いほど、以下の通り上位に位置している。5=最上位、4=上位、3=中位、2=下位、1=最下位。
- ・ 各目盛りへの順位の割り振りは以下の通りである。5=1-5位、4=6-10位、3=11-20位、2=21-25位、1=26-30位。
- ・ 4指標のうち、出生率、既婚率及び定住率は値が高いほど、結婚年齢は年齢が低いほど目盛りの上位になるように設定している。
- ・ コホート別評価は、各コホートが2015年に到達した年齢区分までの状態で評価している。（例：1966-70年生まれコホートの場合は44-49歳。）

②チャートの見方

- ・ 合計出生率は目盛りの値が高いほど女性当たりの子ども数が多いことを示している。
- ・ 女性既婚率は目盛りの値が高いほど既婚女性が多く、子どもが生まれる機会が多いことを示している。
- ・ 女性定住率は目盛りの値が高いほど、多くの女性が市町村内に定住しており、出産や子育ての環境が整備されている可能性が高いことを示している。
- ・ 女性結婚年齢は目盛りの値が高いほど結婚年齢が低く、子どもが生まれる機会が多いことを示している。

③例

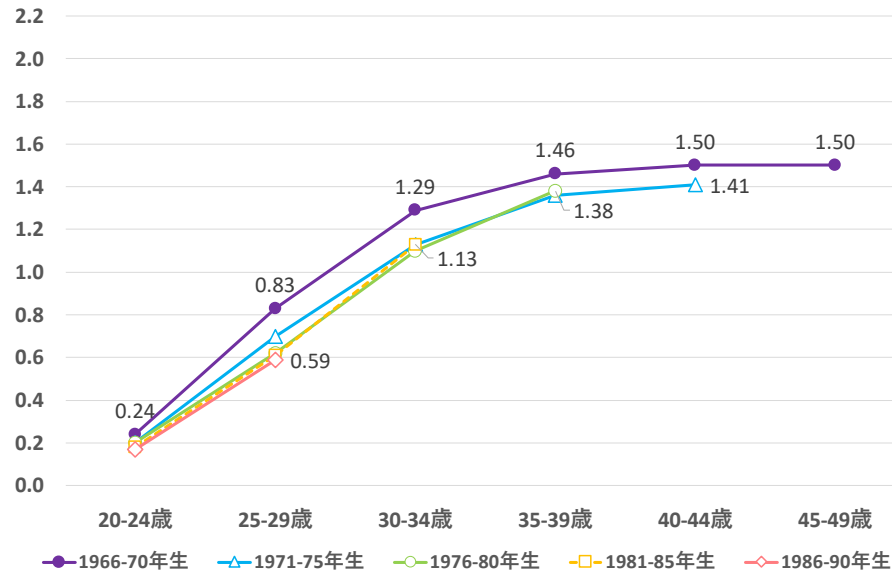
図0-1 コホート別総合評価の例



1. 合計出生率は、すべてのコホートで目盛りの値が5（1-5位）であり、最上位に位置している。
2. 女性既婚率は、すべてのコホートで目盛りの値が4（6-10位）であり、上位に位置している。
3. 女性定住率は、1966-70年生まれから1976-80年生まれまでは、目盛りの値が2（21-25位）で下位に位置している。1981-85年生まれと1986-90年生まれは目盛りの値が1（26-30位）であり、最下位に位置している。
4. 女性結婚年齢は、すべてのコホートで目盛りの値が3（11-20位）であり、中位に位置している。

(2) 日本のコホート合計出生率

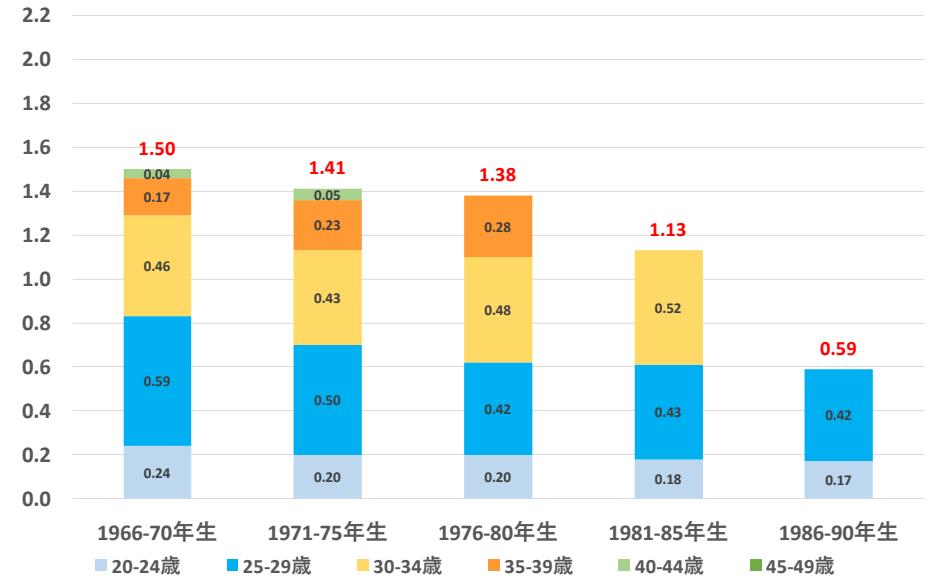
補図1 コホート合計出生率の推移



注：厚生労働省「人口動態統計」より作成。

- ・ 補図1は、日本全体のコホート合計出生率の推移を示している。
- ・ 県内市町村と同様に、1966-70年生まれと1971-75年生まれ以降のコホートに出生率の大幅な低下がみられる。
- ・ 晩婚化のため、1976-80年生まれ以降のコホートは25-29歳でそれ以前のコホートよりも出生率がさらに低下しているが、30-34歳では1971-75年の水準に回復している。

補図2 コホート合計出生率の年齢区分別内訳



注：厚生労働省「人口動態統計」より作成。

- ・ 補図2は、コホート合計出生率の年齢区分別内訳を示している。
- ・ 20歳代の出生数は、1966-70年生まれコホートの0.83人に対して、1986-90年生まれは0.59人に大きく減少している。30歳代では1966-70年生まれの0.63人に対して、1976-80年生まれは0.76人に増加している。
- ・ 20歳代の出生率は晩婚化のため低下しているが、30歳代では1966-70年生まれから1人が生まれておらず、20歳代の低下を補うほどには増加してない。
- ・ 子どもが産まれる確率が最も高い25-34歳の出生数は、1971-75年生まれから1人を下回っており、1981-85年生まれは0.95人である。